平成30(2018)年「正覚寺報」8月号

◆ご　案　内

①仏教壮年会お聴聞の会 8月5日(日)20時～

本格的な御法話が聞きたい、お聴聞がしたいとの念願に支えられて営んで参りました仏教壮年会恒例のお聴聞の会です。

当日は 22 日住職が出講致しましたご法話、安堂様には近々ご出講になるいずれも 50 分法話の一節をご紹介することになります。皆様賑やかにお参り下さい。

②正覚寺歓喜会 8月25日(土) 午前10時～

歓喜会は、今から五年前に大阪でお寺をお開きになり、当院においで戴くお客僧の中では最も若く落ち着いた御法話をなさる平野正信師にご出講戴きます。当日は、百回忌をお迎えの御門徒様のご法事を併修致します。

八月度の仏婦月例会も「歓喜会」に合同して営みますので、皆様賑やかにお参り下さい。

③滋賀組親鸞聖人讃仰布教大会 8月26日(日) 午前9時20分受付、10時10分より御法話

滋賀組の讃仰布教大会は、正覚寺が会所になります。若手の西川　至師、全国布教同志会の森　直道師にご出講戴きます。

正覚寺が会所となる組の事業ですので、皆様にはぜひとも賑やかにお参り下さいませ。

◆如来様のお姿を仰ぐ

七月の一ヶ月は随分長い一ヶ月でした。人間は高齢になるほどに月日が過ぎ去るのが速く感じられると云われますが、それとは正反対に新鮮な喜びに満ちあふれた一月でありました。

去る七月二十二日（日）には、新旧の総代様方が打ち揃って境内の主立った樹木の剪定に汗水を流して戴きました。

連日四十度に迫る暑さの中でしたので、お気持ちだけで大変有り難いとご遠慮申し上げましたが、それを振り切ってのご奉仕でありました。八月末に滋賀組讃仰布教大会をお迎えするための会所総代様方の心意気でありました。

最古の大乗仏典の一つ『般舟（はんじゅう）三昧経』に説かれる「現在仏が面前に現れる三昧（ざんまい）」を彷彿とさせる実践行でした。

剪定後に現れられたさっぱりした木々のお姿こそは、剪定三昧を通してお迎え戴いた如来様のお姿そのものに他ならなかったからです。

『般舟三昧経』では、バドラパーラ菩薩が座より立ち、衣服を調え、膝立ちしてお釈迦様に25の質問を発します。

「(1) どのような法を行じたならば、大海がよろずの河の流れをおさめとるように智慧をうることができるのか、

(17) どのように行じたならば、人が信じるようになるのか、

(23) どのように行じたならば、心を集中して念じ続け諸仏が悉く現前するのか」等々です。

お釈迦様は、バドラバーラ菩薩におっしゃった。「お前の質問は、お前が前世で過去仏がまします時に功徳を積み、諸仏を供養して経法を喜び、戒を護る行いが清浄であったことがもたらした。お前が積み重ねた功徳は計り知れない」と。

お釈迦様は、バドラバーラ菩薩におっしゃった。「十方の諸仏が悉く面前に立つと名付ける『般舟三昧』がある。この法を行じたならば、お前の質問はすべて解決する」と。

今年の安居で講じられた『般舟三昧経』一巻本には、三十二相の色身の仏を念ずれば、現在仏が面前に現れる三昧（般舟三昧（はんじゅうざんまい））を獲得することができるとお説き下さってあるのでした。合掌。